

令和 6 年度 園評価・関係者評価書

1. 教育・保育目標

心豊かにたくましく生きる子 ○自分で考え行動する子 ○友達と育ち合う子 ○健康で心と体の強い子

2. 本年度の重点目標

「のびのびと！ 心わくわく！ やってみよう！」
ー 心と体を動かして遊ぶ楽しさを味わうための環境の構成と援助のあり方 ー

3. 自己評価結果(達成状況)【 A:達成している B:概ね達成している C:あまり達成していない D:達成していない 】

評価の観点	評価項目(取組内容)	取組(達成)の状況・改善の方策	評価
園 運 営	○職員の資質向上 ・実践的指導力の向上 ・計画性のある研修の実施 ○園務分掌の適切な機能と責任体制の整備	・行事や遊びについて各年齢で話し合ったことを職員間で共通理解でき、保育を語り合えた。 ・外部講師の指導の下、クラスごとに公開保育を計画し、日々の保育の振り返りや意見交換を通して指導力向上に努めた。 ・総合教育センターの巡回図書を利用することで、新たな教育の動向を学ぶきっかけや自己研鑽に繋がっている。 ・園務分掌や行事計画・避難訓練の役割など、担当の保育教諭が立案し、内容は職員全体で何度も意見を出し合い、共通理解するようにした。	A
教 育 課 程	○興味や関心に基づいた直接的な体験が得られる生活の工夫 ○友達と十分にかかわって展開する生活の工夫 ○幼児の主体性を大切にした指導 ○幼児一人一人の発達の特性を踏まえた指導方法の工夫	・園児の興味関心を探り、主体的に遊び込めるような時間の確保や室内外の環境を整えるように努めた。また、季節に応じた栽培物や飼育物に触れられるような環境構成にも努めた。 ・園児理解に努め、個々に応じた適切な関わりを心掛けた。 ・園児との信頼関係を築くことを大切にし、その上で園児が自然な姿でやりたいことに取り組んだり自己発揮できたりするよう関係性を築くようにした。 ・季節の行事を中心に異年齢交流の機会を昨年度より充実させるようにしたと共に、午睡の寝かし付けやおやつの後の遊びなど、普段の生活の中でも交流できるようにした。	A
子 育 て 支 援	○「親と子の育ち合いの場」としての役割や機能の充実 ・未就園児や保護者への園庭開放 ・子育て相談、講座等の開催 ○一時預かり・延長保育の実施	・保育参観や運動会など園児の成長を見て感じられるように、事前に参観のポイントや取り組みの様子などを写真を交えて分かりやすく伝えた。 ・毎月1・2回未就園児の親子を対象に子育てひろばを開催し、遊具で遊んだり園児と関わる機会を設けたりした。保護者には、園の雰囲気や園児の様子を見てもらいながら、子育ての不安や悩みなどを聞く機会とした。 ・預かり保育では、クラス担任からの申し送りを、連絡ミスや言葉足らずで誤解を招くことがあった。信用を損なうことがないよう細心の注意を心掛けた。	B
安 全 管 理 保 健 管 理	○園舎の安全安心確保 ・園舎や遊具の安全点検及び管理 ○職員の安全管理能力の向上 ・危機管理マニュアルの周知徹底と活用 ・防犯、防災訓練の実施 ○交通安全指導の推進 ○健康観察、疾病予防、健康診断の実施	・感染症が流行しているときは、保護者向けに玄関で情報を掲示したり、一斉メールで注意喚起を呼びかけたりしたが、広がってしまった。園児の様子の変化に細心の注意を払うように心掛け、マスク着用などを促しながら感染拡大防止に努めた。 ・園内での怪我は、家庭への連絡用紙を用いて確実に伝達を行い、用紙の控えを見て職員間でも状況が周知できるようにした。 ・保育室や園庭の安全点検を行い、また、整理整頓や清掃などにも注意を払っていった。 ・保育中に起きたヒヤハットの報告事例を作成し、職員会議などで共通理解を図った。 ・毎月の避難訓練では職員間の動きを確認し、速やかに園児を安全に避難させることに努めた。	B
道 徳 ・ 人 権 教 育	○幼児の体験や経験を通した、人権意識や道徳性の芽生えの育成 ・命の大切さにふれる体験の重視 ・思いやりの心を育む環境の工夫 ・豊かな感性、様々な気づきを育む環境の工夫	・野菜の栽培や生き物の飼育を通して、栽培中に枯れたり、収穫しようとしたら食べられたりした経験を振り返り、どうしてそうなったのか、どうしたらよかったのか、すぐに答えを出すのではなく、園児に考えさせるような投げかけや保育の工夫を行ってきた。何事もまずは自分で考え、やってみよう！の気持ちをもてるように、園児への関わりを考え、取り組んだ。 ・異年齢交流で、異年齢のクラスを行き来したり遊びに招待したりして思いやりをもって関わった。 ・保育教諭間でも園児の人権を尊重する言葉がけに重視し、人権擁護について意識向上できるような研修を取り入れたりチェックリスト表を使って自己点検できる機会をつくったりした。	B
特 別 支 援 教 育	○一人一人の特性や発達課題に応じた支援 ○専門医療、教育機関との連携 ○途切れない支援の推進 ・家庭との連携 ・小学校との連携	・各種専門機関や保育所等訪問事業など連携を進めながら、専門的なアドバイスを受け、個々に応じた支援策を考えた環境を整えたりした。また、園内でも定期的に支援部会をもち、職員間で情報共有したり、互いの支援方法について意見を述べ合い園児理解に努めたりした。しかし年度後半は、行事等に追われ、それぞれの課題に応じた協議の時間をとるのが難しく、時間の確保が課題である。 ・就学先決定に向けては、保護者の不安に寄り添い、悩みが軽減できるように、小学校などとの連絡を密に取り、授業体験の機会をつくることで、保護者の意思決定に繋がった。	A
家 庭 ・ 地 域 ・ 他 校 種 と の 連 携	○信頼される園づくり ・情報の発信、受信 ○園行事への積極的な参加の推進 ○地域の特性に根ざした園づくり ・教育資源の活用(文化・人材・施設・自然) ○小・中・高との連携 ・互いの学びの場となる計画的な交流 ○実習生の受け入れ ・人材育成の施設としての役割遂行	・遊びや生活の中で園児が成長する姿を、分かりやすく字体を変えたり、写真を入れたりして校正を工夫し、クラスだよりなどで伝えた。また、その日の園児の様子をタイムリーに伝えられるように、ドキュメンテーションを作成し、メール配信して家族でも見てもらえるようにした。 ・トライやるウィークで中学生4名を受け入れる。期間中は学年別に配置し発達の違いや関わり方を知ってもらったり、作業を一緒に行ったりした。保育だけでなく環境整備も大切な仕事の一つだと感じてもらうように思う。高校生のインターンシップも積極的に受け入れた。 ・計画的な幼小小交流に加え、虫捕りや散歩など普段の生活の流れの中で、小学生と触れ合える機会ももてた。また、保育実践を小学校教諭に公開し、外部講師にファシリテーターとして入ってもらい、接続期の在り方などについて意見を出し合い今後の課題が明確になった。	A

園名 加西市立加西こども園

4. 自己評価方法の適切さについての関係者評価

・全職員で保育の振り返りを大切にされているようなので、今後も向上心をもって学び続けていってほしい。

・次年度に向けての時間の確保が必要である。

5. 評価の観点ごとの関係者評価

園自己評価結果及び改善の方策の適切さについての評価

・職員間で共通理解され、自己研鑽に努めながら、更なる向上を目指し連携が取れていて良い集団だと思う。
・外部講師のアドバイスを受けながら、広い視野での研修も積まれていて素晴らしい。
・保育の資質向上のために、振り返りを積極的にされている様子である。園児の活動がより豊かなものになるよう、園内の雰囲気づくりや話し合いの時間の確保に努めていってほしい。

・園児はゆったりとした時間の中で、学びを深めていくものだと思う。こども園の先生方は、一人一人を大切にしながら、それぞれの声に耳を傾け、適切なアドバイス、声掛けをされている。短所矯正型ではなく、長所進展型を目指してほしい。
・園児の主体性を大切に活動ができるように工夫と配慮がなされており、その様子を保護者に細かくおたより等で知らせている。引き続き、取り組みの様子を丁寧に伝えてほしい。

・運動会や発表会など、園児の活躍の場が前もって保護者に伝えられるというきめ細かい心配りに感心した。また、事後報告等も含めて、先生方の園児の声を拾い上げる能力の高さや発信技術の高さにも驚かされた。
・保護者の子育てに対する不安は強くなってきている中、園児たちの日ごろの様子を詳しく伝えたり、個別に話し合う機会をもち、保護者の思いを受け止め共有したりすることで、少しでも不安が軽減されている様子である。
・オンライン研修という新たな取り組みが形を工夫されている。

・園内での怪我の状況等を職員間で周知し合うことは、怪我防止にも配慮できると思う。意識しすぎることは萎縮につながる心配もあるが、運動会では土手を転がる競技の工夫など逞しい園児たちに驚いている。
・集団生活での感染症の広がりは避けられないが、速やかな職員の連携や保護者対応がされている様子である。今後もマニュアルを全職員が周知し、いろいろな場面に対応できる意識を高めていってほしい。

・異年齢交流で、年長児として、いろいろな思いやりが育つだろうし、年少児は憧れや目標など理想像を描くことができる。ゆったりと時間がもてるこの時期に貴重な体験をしていると感じる。
・友達や自然と関わる中で、気になることがあった場面でも、先生が答えを出すのではなく、その時々に関心したことがあったことや感じたことを丁寧に受け止め、みんなで話し合いを進めていく様子が見える。今後も園児と共に考える姿勢を続けていってほしい。

・特別支援体制がよく整っているという印象を受けた。全職員でそれぞれの役割に合わせて、サポートされているように感じる。そんな中で、きっと一人一人の個性が引き出されているのだろうと思う。
・専門機関との連携や職員間での情報共有も十分されている様子。全園児が生活発表会へ無理な参加していない様子を見ると、日頃から一人一人、丁寧に関わられていることがわかる。

・日ごろから、おたより等で園児たちの活動の過程が分かりやすく伝えられており、レベルの高さやきめ細やかさに感心するばかり。忙しい日々の中で、個々の声を拾って、あれだけの内容や写真入りで発信することは、かなりの労力を要すると思う。園児を尊重し、丁寧に園児に保育されているのがわかる。
・生活発表会では、保護者が園児たちの姿を見るポイントをさりげなく伝えられているのが良かった。
・地域との関わりも大切にされている様子。特に幼小連携は密にされているようで、積み上げができていくと思う。未来を見通した体験の場を設けられていることにも展望を感じた。